

# 第5回パイロット研修会報告書

報告者：富山みなみFC 栗山 政和

期 日：平成21年2月7日（土）～2月8日（日）

場 所：財団法人日本サッカー協会（4F会議室）

参加者：北信越クラブユースサッカー連盟 FC湖北 高井篤志（42歳）3種

富山みなみFC 栗山 政和（34歳）3種

## ■スケジュール

平成21年2月7日（土）

- 12:30～ 受付
- 13:00～13:30 開会、挨拶、研修の目的と日程説明
- 13:30～15:00 セッション1 「JFAのヴィジョン  
～2015年へのロードマップ～」(JFA)  
講師：真田 幸明（日本サッカー協会 PHQ部長）
- 15:15～16:30 セッション2 「総合型地域スポーツクラブについて」  
講師：南木 恵一氏（株式会社メディアプロ）
- 16:40～17:50 セッション3 各地域連盟の課題
- 18:00～19:45 セッション4 グループワーク
- 20:00～ 懇親会

2月8日（日）

- 9:00～10:00 セッション5 グループワーク
- 10:15～11:15 セッション6 グループワーク発表
- 11:30～12:45 セッション7 「大学とスポーツクラブの連携」  
講師：後藤 禎和氏（NPO法人ワセダクラブ事務局長）
- 12:45～13:30 昼食
- 13:30～14:45 セッション8 「プロスポーツクラブと地域の連携」  
講師：南木 恵一氏
- 15:00～15:30 まとめ（JCY）&全体質疑応答
- 15:30 終了・解散

<2月7日>

## ■「オープニング」

JCY事務局の大谷 憲也氏からJCYの理事紹介、理事長の真田 幸明氏、常務理事の加藤 孝俊氏（北海道クラブユース連盟）、同じく常務理事の佐伯 仁史氏（北信越クラブユース連盟）の紹介があり、続いてJCYの事務局として渡邊 ゆかり氏と堤 葉子氏の紹介があった。研修会の目的と開会の挨拶

拶として、JCY 常務理事の加藤 孝俊氏から「やりたいことをやるためには、常にステップアップをしていかなければならない。日本サッカー同様に各地域連盟も各クラブにおいても 10 年・20 年先を見据えて勉強していかなければならない。」と力強い言葉でセッションの始まりを迎えた。

## ■セッション1 「JFA のビジョン 2015 年へのロードマップ」

セッションに入る前に、真田氏よりアイスブレイクテストが3つ出題されました。1 番心に残ったものを紹介します。深く考える必要はありません。実際に30秒ぐらいでどんどん進んでいきましたから・・・

東の間の休日、父親と息子が郊外を車でドライブしていた。突然、対向車線から飲酒運転のドライバーによるトラックが飛び出してきた。父親の必死のハンドル操作も間に合わず、車は正面から衝突した。運転していた父親は死亡し、後部座席にいた息子は大きな傷を負い、早く手術をしないと危ない状況である。幸い、高い技術を持つ脳神経外科がある病院へ緊急搬送された。緊急連絡によって、ちょうど国際会議から帰ったばかりの世界的な権威を持つ脳外科医が駆けつけた。そして、急いで手術をしようとしたその瞬間、「私の息子だ・・・」と医師はメスを落としてしまった。

さて、この医師と息子の関係は？

真田氏は、「トーナメント戦や短期のリーグ戦では、負けを恐れるあまり守り中心のサッカーになり選手自身がリスクを犯して攻めたりチャレンジする場がない。厳しいゲーム経験が乏しいので攻撃や守備の察知能力がなかなかゲームを通じて育っていない。」などと解説し、国際試合を実例に映像で解説し「みんなで理解し協力していかなければならない。」と意見を述べられ、日本サッカー協会としては、

### ～リーグ戦創出に於ける5原則～

- 1、各種別とも基軸となるリーグ戦を年間通じて行える環境を整える。  
(8～9ヶ月にわたって、20ゲーム程度をバランスよく配置する。)
- 2、リーグ戦は他のどの大会よりも優先してカレンダーを組む。
- 3、連盟等の大会はこれをリスペクトするが、その開催時期を連盟間で重ねてゆく。
- 4、JFA 主催の全国大会は、リーグ戦をその母体とする。
- 5、全国大会はシンプルな形式に戻し、リーグ戦の期間が十分取れるように配置する。

という理念を提示した上で、各地域や各連盟と中体連との連絡を密にしていけないといけない。とまとめてセッションを終了した。

## ■セッション2 「総合型地域スポーツクラブについて」

株式会社メディアプロ スポーツ事業部の南木氏からは、富山県を例にあげて「総合型地域スポーツクラブって何？」というテーマを元に資料を使って講義が進められた。現代社会における子供の現状を把握したり分析をして今後の傾向をたてたりすることの大切さや、各県において、スポーツプランという計画が作成されていてそれらを活用したりすることもクラブ運営に必要なではないのか？というように、考えさせられる事柄いくつかあった。普段サッカーばかりの私でも理解できたし、クラブを運営する者

が色々な知識や情報を持っていることは、今後のクラブ発展には必要であり改めて認識させられるセッションであった。

### ■セッション3 「各地域連盟の課題発表」

大まかにですが、関東や九州のクラブ連盟からは、Jクラブの為に大会を運営しているとの声がよく上がる。北信越や北海道のクラブ連盟からは、移動距離が長いこともありコストがかかる。四国クラブ連盟からは、クラブチーム数が少ないので認知度が非常に低い。東海クラブ連盟からは、クラブ連盟としてのビジョンがあまり見えず、理解が深まっていけない。どの連盟もそうでしたが、U18の存在認識が低い。高校選手権が花形である。という意見がでていました。東北・関西クラブ連盟からの出席者は、ありませんでした。

### ■セッション4 「グループワーク①」

グループワークのテーマは①クラブと中・高体連、各協会・各地域との今後のよい関わり方とは？  
②各クラブのビジョンから見たクラブユースの将来像は？というテーマが出題され3つのグループにわかれて熱い意見が交わされたと思います。私のグループは、北海道クラブ連盟の小森氏（登別ジュニアユース）と中国クラブ連盟の山縣氏（廿日市FC）と四国クラブ連盟の中島氏（愛媛FC）と九州クラブ連盟の松尾氏（佐世保FC）と私の5人で時間いっぱい熱い討論をくりひろげました。

<2月8日>

### ■セッション5 「グループワーク②」

昨日の時点で①クラブと中・高体連、各協会・各地域との今後のよい関わり方とは？についてはまとめることができていたので②各クラブのビジョンから見たクラブユースの将来像は？については、宿題になっていたのに懇親会の疲れも残っていましたが時間いっぱい熱い討論をしました。

### ■セッション6 「グループワーク発表」

3つのグループがあり、私たちのグループ1からの発表で私がしました。私たちのグループでは、まず「①クラブと中・高体連、各協会・各地域との今後のよい関わり方とは？」の解決策として4つの案を出しました。Ⅰ各地区での手伝いとして→クラブと中体連との合同練習会及び外部指導で素人の顧問や先生の仕事を減らす。審判等も積極的に行う。’敵ではなく、同じ子供を育成していく’という大きな心を持つこと。Ⅱ協会等への関わりかたとして→トレセンスタッフや運営面・役員への参入Ⅲクラブチーム主催の大会として→レベルの高い学校を招待する。情報を公開するⅣクラブチームのPR活動として→スクール活動や部活動との差別化。マスメディアを活用する。ということと富山県の現状を自分なりに分析して意見を述べさせてもらった。

「②各クラブのビジョンから見たクラブユースの将来像は？」の回答は、Ⅰクラブユースの2極化が進むのではないかとJクラブの為に大会と新人戦だけを行う大会屋・・・Ⅱ各地域のクラブ連盟や各県のクラブ連盟でのメリット性を出していく。クラブ連盟にしかできない、各種講習会などを打ち出してい

かないと、中体連・クラブ連盟・その他のクラブというのが沢山でてくる可能性がある。という回答になりました。各グループともに、個性があつていい刺激になりました。実際問題、現状と変わらない難しい問題もありますが、同じサッカー人として「子供たちを育てる」という目的は変わらないので指導者同士が協力していかないといけないと改めて認識させられました。あと、「その他」のクラブというカテゴリーがあることを初めて知りました。クラブユース連盟に登録しなくても、日本サッカー協会に登録して高円宮杯だけに出場できればいいというクラブが他のクラブ連盟では結構あるみたいです。Jのクラブとやらなくても勝利にこだわらず楽しくできればいい。という感じのクラブみたいです。富山にはまだありませんが、今後出てくる可能性もあるし北信越クラブユース連盟の所でも出てくる可能性はあるので、そこら辺の対応がどうなるのか課題ではないかと個人的には感じました。

### ■セッション7 「大学とスポーツクラブの連携」

NPO 法人ワセダクラブの事務局長の後藤氏からは、大学がスポーツクラブを保有する意義として、大学の持つ施設や競技者や指導者が、市民に良いスポーツ環境の提供を行い真の総合型地域スポーツクラブの具現化を図ることで社会的評価を得ることで、日本のビジネスモデルとなるという目標を掲げ「大学とスポーツクラブの連携」というテーマを元に資料を使って講義が進められた。その中で印象に残ったことは、「いい人材（スタッフ）を確保する」ということ。クラブだけでなく、企業も人材確保に頭を悩ます時代です。各クラブにおいてこの重要課題を克服することが発展するためには必要ですし、資金力を確保することも必要でしょう。各クラブがしっかりビジョンを持ち活動することが大切であるし、ワセダクラブも「日本のビジネスモデルとなる。」という目標を達成できるようにこれからも頑張っていきたい。という建設的な意見でセッションを終了した。

### ■ランチタイム

研修会が行われている日本サッカー協会には、日本サッカーミュージアムが併設されており昼食後に観てきました。日本サッカー史を振り返る豊富な資料が展示してあったり、ワールドカップの映像が流れていたりして目頭がとても熱くなってしまいました。日本代表グッズが買えるショップもあり、一般のお客さんも買い物されていましたが、子供たちがヨーロッパのバーなんか置いてある、おしゃれなサッカーゲーム（人形でボールを蹴るタイプ）で熱くバトルしていていい雰囲気の施設でした。

### ■セッション8 「プロスポーツクラブと地域の連携」

1日目のセッション2と同じく株式会社メディアプロ スポーツ事業部の南木氏からは、富山県のプロチームを例にあげて「プロスポーツクラブと地域の連携」というテーマを元に資料を使って講義が進められた。グラウジーズ・サンダーバーズ・カタールレの観客動員数とJクラブの観客動員数の違いや南木氏がアドバイザーとして運営に携わっているサンダーバーズの行っている活動の紹介を受けた。プロチームではないが、地域の少年団や行政などと協力を図り地域を元気にしていく活動を行うことも必要だと個人的には思っていたので、新たなアイデアが浮かんだりしてとてもいいセッションであった。

## ■まとめ (JCY)&全体質疑応答

研修会のまとめとして、JCY 常務理事の加藤 孝俊氏からグループワークの課題の中から、クラブユース連盟として大会だけを行う「大会屋」としての連盟ではなく各クラブが発展できるように今後も各地域の連盟とビジョンを共有して頑張っていきたい。という建設的な意見で研修会を終了した。

### \*アイスブレイクの答え

回答は、母親と息子です。

私は、世界的な権威という所で勝手に男性と思い込み、「離婚した父親と息子」というトンチンカンな回答でした。私たち指導者は、未来ある子供たちに接しているわけですから、固定概念にとらわれることなく、子供たちに接して欲しい。という真田氏からの熱いメッセージであったと思っています。